

6. 本時のねらい 具体的な操作活動を通して包含除の意味を理解し、包含除の場面でも除法を用いられることがわかる。

7. 本時の展開 (4/8)

	ねらい	学習活動	指導・援助
つかむ	<p>・提示された問題と既習の等分除の問題文との共通点、相違点に気付くことができる。</p>	<p>1. 問題を読み取る。 あめが12こあります。1人に3こずつ分けます。何人に分けられるでしょう。 ○今までの問題と同じところ、違うところはどこですか。 ・同じところは、全体の数がわかっていること。同じ数ずつ分けること。 ・違うところは、 ・前は3人に分けたけど、今度は何人に分けるかわからない。今日の問題は何人分かをみつける問題だ。 ・前は何個ずつ分けたけど、今日の問題は3個ずつわかっている。</p>	<p>・かけ算との違いや既習学習が想起できるような掲示を工夫しておく。 ・問題場面を把握しやすくし、等分除との相違点を明らかにするために、問題文を3文に分けて提示する。 ・「問題を読んだら」の手順に従い、既習問題との共通点や相違点について考えるところまでを個人で取り組ませる。 ・共通点として、「同じ数ずつ分けている。」が出ない場合は、等分除の場面における課題と比較しながら課題をつくることによって、同じ数ずつ分けることを意識づける。</p>
さぐる	<p>・キューブを使い、全体の数から1つ分の3個ずつを取り出す具体的な操作活動を通して、何人分かを求めることができる。</p>	<p>2. 課題をつかむ。 キューブを使って、同じ数ずつ分けたとき、何人に分けられるのかを見つけよう。 ○袋に入っているキューブの数を確かめましょう。確かめたら、全体の数の12個を袋に戻します。1人に3個ずつに分けて、何人に分けられるのかを見つけましょう。 3. 個人追究をする。 ①先に皿を4つかけ、その皿にのせて分ける。 ②3個ずつ取り出して分ける。 ③3個取り出したら、1つ分ははっきりするように皿をかく。 4. 全体交流をする。 ○どんな分け方をしましたか。 【①の分け方】 はじめに、お皿を4枚かきます。次に、袋から3個ずつのせていきます。 【②の分け方】 ・はじめに、3個出します。 ・2回目、3個出します。 ・3回目、3個出します。 ・4回目、3個出します。空になりました。 ・4回出したから、4人分です。 【③の分け方】 ・はじめに、3個出したらお皿をかきます。 ・2回目、3個出して、お皿をかきます。 ・3回目、3個出して、お皿をかきます。 ・4回目、3個出してお皿をかきます。空になりました。 ・4皿あるから、4人分です。</p>	<p>・キューブが12個入った袋を用意し、算数的な活動が個々でできるようにする。袋に入っているキューブの数を数え、袋に戻すことによって、全体の数がわかっていることを意識づける。 ・わり算の新しい概念を形成する本時においては、TTを行う。T1とT2で教室の半分ずつを受け持ち、全体交流における意図的指名ができるよう、個々の考えをつかんだり、本時まで個別指導を要した子どもの見届けと励ましを行ったりする。 ・③のように、お皿を書き足している子どもに「どうしてかいたの?」とその意図を聞き出す。最後にまとめて書き加えている子どもしかいない場合は、3個取り出した時点でかいた方が何人分できたか分かりやすいことを示唆する。 ・どうやって分けるのか見通しがもてない子どもには、「袋の中にあめは何個あるの。それを何個ずつに分けるの。」と聞くことによって、全体の12個から3個ずつ取り出すことを確認する。 ・何人に分けられるのかを見つけた子どもは、「答えを見つけたら」の手順に従い、図や文に書き表して自分の考えを確かめたり、分かったことをまとめたりする。</p>
深める	<p>・等分除の操作点との相違点を明らかにし、同じ数ずつ分けることは同じであることからわり算の式で表せることを理解する。</p>	<p>○友だちの分け方について、意見はありますか。 ・①はおかしいと思います。だって、何人に分けられるかを見つけないと、はじめにお皿をかいている。 ・②よりも③の方が、4人分とすぐ分かる。 ○みんなの意見をまとめて、山口先生(T2)、ブロックを分けて下さい。 ○前の1人分を見つけない問題とどこが違いますか。 ・前は、はじめにお皿があったけど、今日の問題は、3個出したらお皿をかくところ。 ・前は、1個ずつ配っていったけど、今日の問題は3個一度に出す。 ・前は、全部配り終わったとき、お皿に何個あるか数えたけど、今日はお皿の数を数える。 ○「12個のあめを、1人に3こずつ分けると、4人に分けられる。」を式で表すと $12 \div 3 = 4$ になります。 ・何人かを見つけないときもわり算で表せるんだ。 ・この前と式は同じだけど、3や4の意味が違う。</p>	<p>・T2が色分けしたキューブの図を使って③の分け方で分けることによって、次の2点を意識付ける。 ・3個取り出したらお皿をかいて、1人分作れたことを明らかにする③の考えのよさ ・等分除における、はじめにお皿をかいて1個ずつ分けた操作との違いは、場面の違いによること。 ・等分除における操作との違いを、側面の掲示と板書とを比較させることによって明らかにする。</p>
まとめる	<p>・まとめを使って評価問題を解いたり、本時わかったことを言葉でまとめたりする。</p>	<p>5. まとめ ・同じ数ずつ分けて、何人分かを求めるときもわり算になる。 6. 評価問題に取り組む。 「クッキーが15こあります。1人に5個ずつ分けます。何人に分けられるでしょう。」 ○キューブを使って、答えを見つけましょう。式に表しましょう。 7. やり終えた子どもからダイヤモンド日記(自己評価・相互評価)を書く。</p>	<p>・等分除と同じ式でも、被除数の3や除数の4は意味が異なることを、等分除における式とその意味を表す掲示を指し示すことによって、意識づける。等分除と、被除数と除数の意味が入れ代わることに気付いた子どもがいた場合は、その意見を位置付ける。 ・「包含除の分け方を理解しているか。」「包含除の場面を立式できるか。」の2点について、評価する問題を設定する。 【評価規準】 袋から、5個ずつ取り出して一人分を線で囲む操作活動をし、全体の数÷1人分=人数で立式している。(知識・理解) 評価問題</p>

